

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4271401160
法人名	医療法人 弘池会
事業所名	グループホーム かづさの杜2号館
訪問調査日	平成 19 年 10 月 10 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 30 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271401160
法人名	医療法人 弘池会
事業所名	グループホーム かづさの杜2号館
所在地 (電話番号)	長崎県南島原市加津佐町戊4427 (電話) 0957-87-5699

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成19年10月10日	評価確定日	平成19年11月30日

## 【情報提供票より】(平成19年 8月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 5.4人

### (2) 建物概要

建物形態	<del>併設</del> 単独	<del>新築</del> 改築
建物構造	耐火建築物 造り	
	3階建ての	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	光熱費: 210円/日
敷金	有( ) 円	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	262 円	昼食 367 円
	夕食	420 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成19年 8月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名	
要介護1	1 名	要介護2	5 名			
要介護3	2 名	要介護4	0 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	86.1 歳	最低	71 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	口之津病院、菅歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>事業所独自に、家庭的な環境のもとで利用者の生活を支援するという視点を重視した理念を掲げ、職員を担当制にして馴染みの関係に努めたケアに取り組んでおり、利用者それぞれの得意なことを活かし職員とともに活動する場面作りをしたり、一緒に食卓を囲んだりして、利用者職員がともに支えあう関係であるよう心がけている。</p> <p>また、医療面においては、母体が医療法人であるということもあり、協力を得ながら医療連携体制を整えたり、機能訓練の支援を積極的に行ったりして、絶対に利用者の転倒などがないようにと、徹底して健康管理に取り組まれている。</p> <p>地域においても、運営推進会議に住民代表に参加してもらったり、近隣の保育園の運動会に参加したり、中学生の福祉体験学習の受け入れを行ったりして、ホームの周知と理解への取り組みの努力が見受けられる。</p>
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の結果を踏まえ、ケアサービスの改善に取り組んでおり、立地条件から地域との交流の難しさがあるものの、保育園の行事参加や福祉体験学習の受け入れ、自治会への働きかけなど、積極的な取り組み姿勢が感じられた。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については職員が一人ひとり取り組んで、評価を記入し、全職員で話しあった上でまとめられており、全職員が質の向上に取り組まれる様子が窺えた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、行政担当者、地域住民と家族の代表者にそれぞれ参加してもらい、ホームの現状や介護問題、介護保険制度、評価などについて話し合いを行い、意見を出してもらい、ホームの運営に活かすように努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム便りは年2回発行しており、家族へは毎月利用者のホームでの様子や受診結果、金銭の収支などについて報告している。また、家族が要望などを出しやすい雰囲気作りを努めており、家族からの意見について職員で話し合い、改善に向けて取り組むようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には加入していないが、自治会の集まりには管理者が出席しホームについての理解を得るように働きかけている。また、運営推進会議にも住民代表に出席してもらったり、地域の保育園の運動会や農家から梨狩の招待を受け利用者職員と一緒に参加し交流を深めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に、ホーム独自に家庭的な環境のもとで利用者の生活を支援するという視点を重視した理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、理念に基づくケアについて話し合いをしながら理念の共通理解に努め、理念を念頭に置き利用者の支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、管理者が自治会の集まりに出席しているほか、地域の保育園から運動会に招待され、利用者が参加してとても喜んでいる。また、中学生の福祉体験学習などの受け入れも行き、交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を踏まえ、ケアサービスについて見直しを行いながら改善計画を立て、具体的な取り組みを行っている。また、自己評価については職員全員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、ホームの現状や介護における課題、外部評価などについて話し合い、メンバーである利用者家族や地域住民の代表、行政担当者から意見を出してもらっている。		

長崎県 グループホームかづさの杜2号館

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議において市の担当者と話し合いを行っているほか、ホームの広報紙を配布するなどの働きかけを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、利用者のホームでの様子や受診結果について伝えるとともに、金銭については伝票などを一緒に提示し報告しており、遠方の家族には文書を送付し状況等を報告している。また、家族へ報告した内容は記録に残している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が要望などを出しやすい雰囲気作りに努め、家族が来訪した際などに意見や要望を聞くようにしており、家族から出された意見は、毎日申し送りの際に報告し、職員間で話し合いながら改善へ向けて取り組むようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者一人ひとりの担当職員を決め、馴染みの職員が対応できるように配慮している。また、職員の異動はなく、離職の際には、利用者への影響ができるだけ少ないように引継ぎに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会や、町内の福祉関係者が集まって作っているケアネットの勉強会などにも参加しており、参加した職員は研修報告を作成し、全職員が閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の福祉関係者が集まって作っているケアネットに参加し、勉強会に出席したり、ネットワーク作りを行ったりして、サービスの質の向上に繋がるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申し込みがあった場合は、職員が自宅などに面会に行ったり、利用希望者に何回も見学や遊びに来てもらうことで雰囲気などを把握してもらい、利用者や家族が納得した上で利用を開始できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりのこれまでの経験や得意分野を中心に、料理などについて職員が利用者に教えてもらったり、一緒に作業をするような場面作りに努め、お互いに支えあう関係であるように心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりにおいて、職員は利用者との会話の中で意向や希望の把握に努めたり、希望や意見を言ってもらえるように声かけをしたりしており、レクリエーションなどは利用者の希望を取り入れて決めるようにしている。また、利用者の家族からも話を聞き、利用者の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望や意向を聴取するとともに、アセスメントを行って介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には、3ヶ月ごとに職員全員でモニタリングして見直しを行っており、利用者の状態が変化した時などは随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望や状況に応じて、通院などの支援を行うほか、医療連携体制を整えホームでの医療面の支援にもできる限り希望に添えるように柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族に確認し、それぞれが希望するかかりつけ医を受診できるように、職員が通院に付き添うなどの支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員は、利用者の健康管理に注意し、状態について家族に随時報告を行いながら、家族や医療機関と十分に話し合いを行い、利用者や家族の希望に合わせた支援ができるように努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修会やミーティングの際に、利用者のプライバシーについて常に話をして、利用者のプライバシーや尊厳に配慮した対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりのペース、その時々々の体調や気分に合わせて支援するように心がけている。訪問調査の際に、一人の利用者が、昼の間に自宅ですごすように自由にくつろいでいる姿が見受けられた。		

長崎県 グループホームかづさの杜2号館

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備の際に、利用者それぞれができる範囲で調理や盛り付けなどをしており、食事のときも職員と利用者は一緒に楽しく食卓を囲んでいる。また、食後も自宅で行っているのと同様な振る舞いで、利用者が皿を引いたり、テーブルを拭いたりしている姿が見受けられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴する曜日を決めているが、利用者それぞれの体調や希望に合わせて、利用者が入りたい日に入浴できるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、食後の洗いものや食材の下ごしらえ、お茶入れなど、利用者一人ひとりの得意なこと、できそうなことを手伝ってもらうような場面作りに努め、感謝の言葉を伝えている。また、レクリエーションや外食などの楽しみごとへの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に合わせて、買い物や外食に行ったり、なし狩りなどのレジャーに出かけたりしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には施錠しておらず、職員は常に利用者の見守りに努め、利用者が外出される気配を察知したら、職員間で連携しながら、さりげなく声をかけ一緒に散歩するなど、安全面への注意をしながらも、利用者の自由な行動に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て、併設の施設と一緒に避難訓練を実施し、避難経路の確認や消火器の使用方法などについても指導を受けている。また、マニュアルも作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、利用者のアレルギーや好き嫌いにも配慮してメニューを考え、利用者が安心できる食の提供に努めている。また、利用者一人ひとりの食事や水分の摂取量を把握しているが、記録が食事量のみにとどまっている。	○	水分摂取量についても把握に努めておられるので、大まかにでも摂取量の記録をされると、自らのどの渴きを感じづらくなっている利用者の水分摂取の支援や排泄の支援などに効果的ではないだろうか。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節の花を飾ったり、四季の節句にちなんだ行事や装飾などで季節感が感じられるような工夫をしており、飾り付けは利用者と職員が一緒に考え行っている。	○	玄関の周辺がアスファルトなので、竹を立て掛けたり、古い桶やかめなどを置くといった一工夫をされると更に効果的ではないだろうか。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族の希望に合わせて、馴染みのある物や好みの物を居室に持ち込めるようにしており、居室には、利用者の好みや希望が取り入れられ細やかな配慮が見受けられた。		